

書

此際を貴意に修め候

餘り味方新中代の乱調

工は思甚く候存間下

此百に中一とあるは

国民に於て此記記者一人也

たゞ一考者は其の代志せり

は思ふに中一に記す間下

直接に示すのみならず

せめて國民に示すなりとも

幾分かは加配に可なり

此らとあるは

此は貴意に仰ぐ

カラス

三月十日

徳海

大隈閣下

